

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立神野小学校
1 前年度 評価結果の概要	・コロナ感染防止対策の緩和に伴い、多くの教育活動や行事、地域の催しがコロナ禍以前の状態にもどった。まちづくり協議会や関連機関など再び地域と連携し、開かれた学校づくり、心豊かな地域を愛する児童の育成に取り組むことができた。 ・校内研究では、「算数科」を中心に授業改善、学力向上に努め、全国学習状況調査や県学習状況調査では、すべての学年・教科で県平均を上回る結果が得られた。 ・大きないじめ事案や児童の問題行動等の事案の発生、個別の支援を必要とする児童が増加傾向にあり、学校全体で組織的な対応を迫られることとなった。問題行動等の事案への早期発見、早期対応を全職員で取り組むとともに他者への思いやりや社会性を身につける教育活動の充実が必要である。 ・幸い重大な事故には至らなかったが、交通事故が一件発生した。事故防止に向けて、児童への安全指導を強化及び地域と連携した事故防止対策を進める必要がある。

2 学校教育目標	夢をもち 心豊かに たくましく生きる 神野っ子の育成 合言葉 「楽しい学校のステキな○○」
----------	--

3 本年度の重点目標	①自己肯定感・自己有用感の育成による心の安定 ②健康・体づくりに対する意識の向上と望ましい運動習慣・食習慣の形成 ③業務改善・教職員の働き方改革の推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1) 共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力・学習状況調査結果の分析をもとにした学習指導上の確認事項を意識して指導したと答える教職員を100%にする。	・問題解決型または学習過程のあり方を全職員で共通理解し、ノート指導や学習の決まりの指導の徹底を図る。	B	・学力向上研修で設定した学年の取り組みにそれぞれ取り組んでいる。少しずつ成果が見られるようになった。	B	・学力向上研修で設定した学年の取り組みに対して、達成率85%ほどであった。各学年職員室の近くの壁に掲示しておくなどの手立てが必要であった。	A	・先生方の取組は、フリー参観等で伝わる。 ・成果指標を評価するアンケート結果において、100%達成されていることは、十分達成されていると評価してよい。	学力向上コーディネーター	
	○主体的に学び、進んで考える児童の育成	○めあてを達成するために、友達と話したり、調べたりするなど、進んで学習に取り組んでいると答えた児童を80%以上にする。	・興味・関心・疑問を引き出すような課題提示の工夫を行い、友達と対話させながら、主体的に学び、進んで考える児童を育てる。	B	・1学期末のアンケートの結果では、88%の児童がめあてを達成するために、友達と話したり、進んで学習に取り組んでいると答えた。今後も、友達と対話させる時間を設けたり、タブレットを活用したりする授業づくりを進め、主体的に学ぶ児童を増やしていく。	B	・2学期末のアンケートの結果では、89%の児童がめあてを達成するために、友達と話したり、進んで学習に取り組んでいると答えた。今後も、研修や教材研究を積み重ねながら授業改善に取り組み、子どもたちが主体的に学ぶことができる授業づくりを行っていく必要がある。	A	・フリー参観等で見られる児童の姿から、十分達成されていると評価してよい。 ・成果指標を評価するアンケート結果において達成されているので、十分達成されていると評価してよい。	学びづくり部長	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートの、道徳に関するアンケートの項目において肯定的な回答をする児童を80%以上にする。 ○道徳の授業公開を年に1度以上は必ず行う。	・道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を高めるための授業実践力の向上に取り組む。 ・フリー参観デー等で道徳授業を公開し、家庭・地域と心の教育の連携を強化する。	B	・6/9のフリー参観デーで、全クラスにおいて、保護者や地域の方が参画したふれあい道徳を実施した。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童97.4% ・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした保護者が97.9%で昨年より2.3%上昇した。 ・ふれあい道徳を実施したことで道徳教育の推進につながった。	A	・公民館での児童のマナーもよく、学校外での子どもたちの過ごし方もよいと思われる。 ・アンケートの質問項目が取組内容と合致しているかどうか検討が必要。	道徳教育推進教員	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○教職員の研修や教育相談週間、いじめアンケート・心のアンケート等の実施により、学校はいじめ防止・早期発見と解決に努めていると答える教職員を100%にする。	・アンケート等で問題事案を覚知した場合は、早急にチームで対応する。正確に事実確認をし、話し合いの場を設け、早期解決を図る。	B	・毎月、いじめ・いのちを考える時間に併せて心のアンケートの確実な実施を行った。気になる事案は、担任が状況を聞き取り、学年主任や管理職へ報告をすることで早期解決につなげることができた。教育相談週間では、児童一人ひとりと個別に話すなかで、状況を把握する機会となった。	B	・毎月のいじめ・いのちを考える時間では、1つの学級に多くの職員が関わって実施をした。いじめ防止・早期発見の取組についてのアンケート結果は、教職員76.7%であったが、前年度より約35%上がっている。学年をはじめとするチームでの対応で早期解決を図るようになった。児童の約8割が困ったとき先生に相談できると答えた。100%を目指して教育相談の在り方を検討していく。	B	・いじめの早期発見や早期対応に対する先生方の取組は大変素晴らしいものがある。 ・困った時に先生に相談しにくいという児童も一定数いるので、その児童へのアプローチを今後学校全体で考えていく必要がある。 ・今年度のいじめ事案の再発防止と取組を全職員で行ってほしい。	教育相談	

様式1(小・中)											
		●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●先生たちはあなたのよいところを認めてくれていると答える児童を90%以上にする。 ●将来の夢や目標を持っていると答える児童を80%以上にする。	・学習時間をはじめ学校生活のあらゆる場面で一人一人のよさを見つけ、お互いを認め合う学級風土作りを行う。 ・「楽しい学校のステキな○○」を合い言葉に、全職員で自己肯定感を高めるためにの「すてき発見」に取り組む。	B	・学校生活のあらゆる場面で、できていない児童を注意するのではなくできている児童の姿を見つけ褒める取り組みを行っている。 ・将来の夢や目標を持っていると答える児童の割合が増えるような手立てを設定し、取り組みを続ける。	A	・褒めて育てる手立てにより学校のルールをきちんと守って生活していると答えている児童は、80%強であった。 ・将来の夢や目標を持っていると答える児童の割合は85%と高かった。	A	・給食の時間に全職員で取り組まれている「ほめほめタイム」は、子どもたちのすてき発見につながり、子どもたちの自己肯定感を高めていると思う。	教務主任
●健康・体づくり		○運動習慣の改善や定着化	○運動場によく出て遊ぶ児童を60%以上にする。	・外遊びの奨励、スポーツチャレンジ等の取り組みを通して、日常的に体を動かす機会を増やす。	B	・低学年と中学年を中心に60%ほどの児童が運動場や中庭で休み時間を過ごしている。 ・スポーツチャレンジについては、後期に実施ができるようアナウンスをしていく。	B	・運動が好きだと答える児童が62%ほどいた。しかし、外や中庭で遊んでいる児童は42%ほどとなっている。高学年を中心に、体育館開放を利用し、体育館で遊んでいる姿が見られた。児童数のわりに運動場が狭いため、体育館の開放を引き続き行い、運動の機会を増やしていきたい。	B	・運動が好きだと答える児童が62%いることは評価できると考えられるが、成果指標を達成できていないので、今後の取組に期待する。	体育主任
		●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に良い食生活をしていると答える児童を80%にする。	・担任と栄養教諭が連携し、計画的に食育指導を行う。また、食育の授業を行うことで、家庭への食育へとつなげる。	B	食育の中心となる給食の時間においての学級間での差がみられる。目標を意識した指導ができるよう教材の提供及び連携強化を図りたい。	A	・「食事・健康に関する調査」で健康に良い食事をしている児童の割合は88.1%であった。今後も食育指導や授業を通して、継続的な指導を行っていく。	A	・今後も保護者へのアンケート結果をみても、家庭での取組も十分である。家庭への啓発もよくなされていると感じる。	栄養教諭・食育担当
		○安全に関する資質・能力の育成	○ヘルメットの着用率90%以上を目指す	・担任、安全指導、生徒指導主任との連絡を密にし、常日頃の生活指導や交通安全教室等を通して児童の安全への意識を高める	B	・安全教室や放送での呼びかけをするが、なかなか着用率が上がらない状況にある。今後は通信等で保護者に呼びかけたりPTAの呼びかけたりする。また、事故の危険性やヘルメットの必要性を理解させることで、安全への意識を高める。	C	・「自転車に乗るときヘルメットをかぶっていますか？」に対していつもかぶっていると答えた児童が76.8%だった。また、交通安全への対応などについてよく話をしている家庭は60%だった。友達同士や家族で安全について話し合う取り組みを考え、安全を守ることの重要性を理解させていく必要がある。	B	・交通事故に限らず、児童の危機管理が甘いようにも感じる。 ・交通事故が今年、3件あったとのことだが、家庭と協力して再発防止に取り組んでほしい。	生徒指導・安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合を10%以下にする。	・1週間に1度定時退勤日を定め、全職員で定時退勤に努める。 ・45時間を超える職員については、個別に声をかけ、時間を意識した働き方を促す。	C	・45時間を超える職員の割合は、4月55%、5月42%、6月40%、7月13%、8月0%、9月37%である。個別に声をかけたり、金曜日を定時退勤日と設定したりしたが、働きかけが積極的ではなかった。今後、18:30に職員に声かけを行い、19時には、セットできるように働きかける。	C	・成果指標に掲げている10%以下が達成できた月は、8月のみであった。勤務時間を意識する声かけや定時退勤日を設けて、取り組みを行ったが放課後に行事の打ち合わせや予定外の会議や対応があり、特にクラス担任の時間外が増えてしまった。	C	・成果指標を達成できていないので、「C」であるが、先生方のやるべきことが多すぎるように感じている。 ・学校だけで業務改善、働き方改革を行うには限界がある。	管理職
●特別支援教育の充実		○特別支援教育の推進	○特別支援教育COが中心となり、特別支援学級担任と交流学級担任との連携を図りながら支援体制を整え、月1回以上、支援の実態把握を行う。	・「自立活動」や「個別の指導計画の効果的な活用」等、特別支援教育に関するミニ研修を定期的に行う。 ・特別支援学級や発達障害傾向の児童との関わり方について学校全体で理解を深める。	B	・交流学級との密な連携を通して、児童の成長を支えることができた。 ・毎週1回の特別支援部会を開催することで、児童の現状や対応について共有し、支援することができた。	A	・週1回の学年部会に特別支援学級担任も参加し、学年の児童や支援に関する情報共有を行った。 ・毎週1回の特別支援部会を開催した。在籍児童の実態や支援の方法を共有することで特別支援に関する専門的な理解を深めることができた。	A	・月1回以上、実態把握を行うことを目標としていたところから、週1回支援を要する児童のために先生方が実態把握や共通理解をされたことは、大変すばらしい。	特別支援教育コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○開かれた学校づくり	◎地域連携を効率的・効果的に推進し、地域の良さを知り、進んで地域に関わろうとする気持ちを育む教育活動の充実	◎地域の良さを知り、地域の人と一緒に活動や学習をすることが好きと答える児童を80%以上にする。		B	・各教科並びに総合学習において、地域の「人・物・事」を活用した学習活動を積極的に仕組む。また地域の関係者と学年の担当者との連絡体制を整える。 ・まちづくり協議会と連携を密にし、児童が地域行事等に進んで参画しやすい環境を整える。	A	・各学年、教科や総合の時間に地域の「人・物・事」を計画的に活用している。 ・まちづくり協議会と連携して、児童に地域行事等を紹介することで、たくさんの児童が行事に参加している。	A	・各教科や総合的な学習の時間において、JAなど地域の各種団体を利用した授業実践を行っている。 ・少年の主張大会や神野芸術祭などまちづくり協議会と連携して行事を行ったり、神野公民館での行事を紹介したりした。カブトムシ大会や夏祭りには、たくさんの児童が参加した。	A	

5 総合評価・ 次年度への展望	・給食時の「楽しい学校のステキな友達を紹介する」ほめほめタイムを中心に、「褒める」ことを大切に全職員で取り組むことができた。児童の自己肯定感や自己有用感も高まりつつある。しかし、不登校傾向や学級で不適応を起こす児童が増えているため、次年度は、不登校傾向や不適応を起こす児童への支援や対応が課題である。 ・大きないじめ事案に発展する事案は起きることがなかった。これは、教職員の情報収集力が高く、すぐに、管理職へ報告し、迅速に対応できたことが大きい。今後も、迅速な報告と組織での共有、対応を行う。大きな事案に発展することはなかったが、いじめ事案は起きている。他者への思いやりや社会性を身につける教育活動の充実を図っていきたい。 ・交通事故が年度当初に3件起こったことは、大変残念である。交通事故の再発防止に向けた取組みは次年度の重点目標と考えるが、交通事故にかぎらず「命を守る」教育及び指導、家庭との連携を充実させたい。 ・地域との関係がよく、学校への理解と協力が得られている。今後も、地域との連携を大切にしながらかれた学校づくり、神野を愛する児童の育成に取り組んでいきたい。
--------------------	--